

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670700525
法人名	合資会社 喜助
事業所名	グループホームなずな
訪問調査日	平成 20 年 1 月 9 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 5 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	670700525		
法人名	合資会社 喜助		
事業所名	グループホームなずな		
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市友江町2番21号 (電話) 0235-38-1750		

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年1月9日	評価確定日	平成20年3月5日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	15.15 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造	造り
	2階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円(5畳)27,000円(6畳)	その他の経費(月額)	光熱水費11,000円、他実費
敷金	有()円	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 880 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	6 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 67 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おかべ内科胃腸科医院 ・ 桜井歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2つの地区の境に位置していることから、両方の地区の方々との交流や地域にあるスーパーなどのお店の方々との馴染みの関係もできており、また、人材育成としての職員研修、ホーム独自の記録表や評価表の活用、活発な運営推進会議の開催など、利用者や家族の希望を実現するために、より良い支援を目指していく、積極的で具体的な取り組みが見られるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価についての理解が職員に得られるよう、評価内容は職員全員が目を通しており、日常の業務と照らし合わせた評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2つの町内会長、民生委員、家族代表等が参加して、利用者の暮らしの様子について、認知症について、外部評価についてなどの内容により、2ヶ月に1回の頻度で開催されており、会議で出された防災関連の意見は避難訓練の中でも活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から、利用者の家族には何でも話しをしてもらえるように心がけており、服の間違い、手あれ、外出時の服装など、さまざまな要望に応えられるように職員全員で取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	毎日買い物に行くスーパーの方と顔馴染みになっており、町内会の回覧板も回ってきている。また、小学校のサマーボランティアとしてホームに来た子供たちが、その後もホームに立ち寄りたり、遊びに来てくれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域交流や社会資源の活用により、認知症のある利用者が、住み慣れた地域の街の中でその人らしく暮らし続けることを支援していく内容となっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を掲示し、月1回の会議の前にも復唱したり、研修等でも理念に必ず触れて意識付けを行い、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日買い物に行くスーパーの方と顔馴染みになっており、町内会の回覧板も回ってきている。また、小学校のサマーボランティアとしてホームに来た子供たちが、その後もホームに立ち寄ったり、遊びに来てくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価についての理解が職員に得られるよう、評価内容は職員全員が目を通しており、日常の業務と照らし合わせた評価に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2つの町内会長、民生委員、家族代表等が参加して、利用者の暮らしの様子について、認知症について、外部評価についてなどの内容により、2ヶ月に1回の頻度で開催されており、会議で出された防災関連の意見は避難訓練の中でも活かされている。		

山形県 グループホームなずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は、利用者の権利擁護等の面でも市町村担当者と連携をとるようにしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、ホーム便りを出しており、個々の介護計画の結果や評価で暮らしぶり、健康状態、小遣い出納状況が報告されている。また、面会時や必要時の電話連絡、職員異動の報告も個別に行われている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から、利用者の家族には何でも話しをしてもらえるように心がけており、服の間違い、手あれ、外出時の服装など、さまざまな要望に応えられるように職員全員で取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニット間のスタッフは固定し、なるべく異動がないように努めている。異動があった場合は、十分な説明を行うとともに介護の流れを変えず、馴染みの関係が築かれるように努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症や高齢者の理解、救命救急法、介護技術等についての研修があり、採用時研修を含め職員の段階に応じて、内部・外部の研修に数多く参加している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内グループホームの部会、県内グループホーム協会に入っており、研修会、交換実習にも参加して交流を深めながら、サービスの質の向上に活かしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事、食事の準備、後片付け、縫い物などを一緒に行うようにしており、職員は利用者感謝の気持ちを表わしている。また、職員は「介護」より「支援」という意識で利用者へ接しており、利用者との関わりの中からの学びを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が感じる感情や思いを、利用者や家族から聞き取ることに努めており、また、日頃の様子、表情、行動からも汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、課題分析を行い、スタッフの意見や家族の意見を聞きながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の評価を毎月行いながら、年2回の定期的な見直しも行われている。また、病気やケガなどにより状況が変わった場合は、その状況に合わせた介護計画が作成されている。		

山形県 グループホームなずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	往診、家族または管理者の同行による受診などが行わ れており、家族と連絡を取りながら、適切な受診ができ るように支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合や看取りに関する指針が作成されてお り、家族、かかりつけ医とも連携を取りながら、話し合い による方針の共有が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	排泄支援の際は、利用者を傷つけるような言葉づかい や声がけにならないように気を付けている。また、確認 表の記載は、記号化して個人ごとに管理するなどの対 応がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて、外出の好きな人、ゆっくり したい人、それぞれに合わせた暮らしの支援が行われ ており、趣味活動や喫煙なども、一人ひとりを尊重した 対応となっている。		

山形県 グループホームなずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作り、買い物、料理の下ごしらえ、片付けなど、職員と一緒に利用者もできることを行っている。また、利用者と職員は一緒にテーブルで同じメニューの食事を会話を楽しみながら食べており、胃ろうの方もリビングで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	二日に1回の入浴を基本にしているが、本人の意向を尊重して、毎日の入浴も可能である。また、入りたいがない場合には、言葉かけを工夫して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	刺し子、ふきん縫い、塗り絵、畑の草むしり、収穫など、一人ひとりがやりたいこと、できることを、利用者ごとのペースや力に合わせて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	シルバーカーを押しながらの外出、食材や衣類等の買い物、散歩、畑仕事などの外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	外に出て行きそうな場面での見守りや利用者と一緒に外に出てみる対応がなされており、リビングには職員がいつも必ずいるため、玄関には鍵をかけずに過ごせている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で出された意見やアイデアも取り入れ、近隣の協力も得ながら、夜間想定を含む災害訓練を年2回行っている。		

山形県 グループホームなずな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じて、お粥や刻み食の対応もなされている。また、食の細かい利用者については、運動量を考慮し、かかりつけ医とも相談して、高カロリー食が提供される場合がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と居間が一緒のつくりであるため、調理の際の音や匂いが自然に感じられる。また、ゆったり座れるソファが置かれ、窓から入る風、窓から見える庭の木々からも季節を感じ取ることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	戸棚、衣装ケース、写真など好みのものが持ち込まれ、身の回りの物が整理されて居心地のよい居室になっている。		